

## 二条大麦新品種「カワミズキ」について

鶴 政夫・\*吉田 智彦・佐々木昭博・田谷 省三・\*\*桐山 毅

\*前田 浩敬・\*\*\*池田 和彰

(九州農業試験場・\*現農事試験場・\*\*現飼料麦協議会・\*\*\*現自営)

西海皮25号は、昭和54年11月に二条大麦農林7号として新品種に登録され、「カワミズキ」と命名され、普及に移されることになったので、本品種の来歴、育成経過、特性などについて報告し、奨励・普及の資料にしたい。本品種の育成に当って、多大の御協力をいただいた関係農業試験場の担当者各位に厚く謝意を表する。

## 1. 来歴ならびに育成経過

本品種は、昭和43年4月に、早生、強稈、多収を育種目標として、農林省九州農業試験場において、羽系H-83(関東中生ゴールのR<sub>0</sub>)を母とし、羽系H-79(アサヒ5号のR<sub>0</sub>)を父として人工交配が行なわれた。昭和43年度にF<sub>1</sub>~F<sub>3</sub>の世代促進栽培を行ない、昭和46年度にF<sub>6</sub>で派生系統とし、その後選抜固定が図られてきた。昭和48年度にF<sub>8</sub>で羽系0-21として生産力検定予備試験に供試し、昭和49年度には特性検定試験及び系統適応性検定試験に供試された。その結果成績が良好であったので、昭和50年9月に「西海皮25号」と命名された。その後生産力検定本試験に供試され、各県農業試験場における奨励品種決定調査の供試材料として配布し今日におよんでいる。昭和53年度における世代はF<sub>13</sub>である。

## 2. 特性概要

形態的特性、並性の二条皮麦である。幼苗期の叢性は中間型である。株は閉じ草型がよい。葉は細く、葉色は

濃い。稈長はダイセンゴールドより約10cm短稈で、稈はやや太い。穂数はダイセンゴールドとカワサイゴクの間程度で、穂数は確保しやすい。穂長はダイセンゴールドよりやや長い。穂型は矢羽根型で直立する。穂の抽出は中程度である。粒着はやや密で、1穂着粒数は多い。芒は長く多い。粒は長型で大粒であるがダイセンゴールドよりはやや小粒である。1ℓ重はカワサイゴク並みでダイセンゴールドよりやや重い。千粒重はカワサイゴクより重く、ダイセンゴールドよりやや軽い。稈色は黄色である。品質はダイセンゴールド並みでカワサイゴクよりまざっている。稈や穂のワックスが多く、また登熟中期頃から葉鞘や茎にアントシアンの発色が多く、淡紅色になる。

## 3. 生態型特性

播種はIIa程度で茎立ちは早い、カワサイゴクよりはやや遅い。出穂期・成熟期はカワサイゴクとダイセンゴールドの間で、カワサイゴクより1~2日晩熟、ダイセンゴールドより2~3日早熟の早生種である。耐倒伏性はかなり強い。収量はダイセンゴールドに比べて、育成地では、標準栽培113%、ドリル播栽培108%、全面全層播栽培112%と安定して多収である。耐湿性はダイセンゴールドよりやや強いがカワサイゴクと同程度である。耐病性は、赤かび病にはダイセンゴールド並みに強く、うどんこ病にはより強いが、萎萎縮病には弱い。穀皮歩合は7%程度でダイセンゴールド並みである。整粒歩合はダイセンゴールド並みに高く、カワサイゴクよりかなりまざっている。搗精時間はダイセンゴールドよりやや短く、カワサイゴクよりはかなり短く、軟質になっている。白度はダイセンゴールドよりわずかに劣ることがあるが、カワサイゴクよりやや良い。搗精歩留はダイセンゴールドと同程度である。

## 4. 用途および適地帯

用途は食用及び飼料用の非醸造用大麦である。九州中北部の平坦肥沃地に適する。奨励品種採用予定県は福岡県及び佐賀県である。

福岡県では現下の麦類の需給・流通状況からして、これからの麦別の作付指導方針としては、主として小麦を増産し、二条大麦は作付増加を抑制することになっている。しかし、二条大麦は4麦中最も早熟であること、赤かび

第1表 カワミズキの主要特性

試験地	九州農試 (標準栽培)		福岡農試 (ドリル播栽培)		佐賀農試 (標準栽培)		
	カワミズ キ	ダイセン ゴールド	カワサイ ゴク	カワサイ キ	カワミズ キ	ダイセン ゴールド	
出穂期(月・日)	4.9	4.12	4.6	4.13	4.12	4.14	
成熟期(月・日)	5.22	5.25	5.21	5.26	5.25	5.22	
稈長(cm)	81	91	88	81	91	86	
穂長(cm)	7.4	6.8	6.6	7.3	6.5	6.7	
m <sup>2</sup> 当穂数(本)	552	531	621	609	724	590	
1穂着粒数	31.8	30.5	27.9	—	—	—	
倒伏程度	ビ	ビ~少	少	△	少	△~ビ	
子実特性	取量(kg/a)	48.5 (113)	42.8 (100)	47.0 (110)	—	—	47.3 (107)
	標準栽培	—	—	—	—	—	44.4 (100)
	ドリル播栽培	51.6 (108)	47.8 (100)	48.1 (101)	52.9 (106)	50.1 (100)	—
	全面全層播栽培	53.4 (112)	47.5 (100)	49.3 (104)	—	—	—
ℓ重(g)	695	685	695	693	702	687	
千粒重(g)	39.2	39.8	37.3	42.9	41.0	37.2	
						39.3	

注)九州農試は主に昭和49~53年度、福岡農試は昭和50~53年度、佐賀農試は昭和51~53年度の成績。

病に強いこと、安定多収であることから、水田裏作として水稲一麦の作付体系を組立てるのに最も適している。そのため早熟、強稈で安定多収の新品種に対する要望は強い。

現在、非醸造用二条大麦の栽培面積は690haで、そのうち480haは奨励品種であるカワサイゴクが栽培されている。このカワサイゴクは極早生で多収であるが、程が弱く倒伏しやすい欠点がある。

カワミズキはカワサイゴクに比較して、かなり強稈で機械化栽培により適している。また、赤かび病には同程度に強く、うどんこ病にはより強い。収量は安定して多収である（福岡農試106%、豊前分場109%、筑後分場103%、現地試験8ヶ所平均102%）。子実は大粒で、整粒歩合がよい。また品質もまさっている。早生種で、平坦部では5月20日～25日頃には収穫可能で、水稲との作付体系を無理なく組立てることができる。以上の理由で、カワサイゴクの大部分とその他の品種に代わる非醸造用大麦として普及させる予定で、当面、610ha程度の普及見込面積を見込んでいる。

佐賀県の非醸造用大麦の栽培面積は2,800ha程度で、主としてダイセンゴールドが栽培されている。この品種

はやや晩性であるので、水稲との作付体系上さらに早生、強稈、多収の新品種が要望されてきた。

カワミズキはダイセンゴールドより3日早熟で、短強稈で多収である（佐賀農試107%、三瀬分場106%、現地試験10ヶ所平均105%）。またその他の特性もすぐれているので、ダイセンゴールドに代る非醸造用大麦として普及させる予定で、当面、約1,500haの普及面積を見込んでいる。

#### 5. 栽培上の注意

春播型であるので、適期播種につとめ早播きはさける。暖冬年や早播きの場合は早目に踏圧を繰返し、茎立ちをできるだけ抑える。

耐倒伏性は他の二条大麦よりまさり、多肥密播によって多収をあげるが、過度の多窒素はさける。

縮萎縮病には弱いので、常発地での栽培はさける。

耐湿性は、小麦に比べるとかなり弱いので排水対策は十分にすする。

#### 6. 命名の由来

早生品種であることから春花が咲くミズキにちなむ。「カワ」は非醸造用の二条大麦を意味する。